

〈12月25日任期満了勝山市長選〉

実績を踏まえ再選に向け万全の水上氏

竹内和順市議出馬表明

勝山市の水上実喜夫市長（65）は6月の市議会本会議で、12月25日に任期満了を迎える市長選に再選を目指して立候補する意向を表明した。

水上市長は4年前、新しい勝山の挑戦を掲げ、決して派手さはないが今の素晴らしいところを磨きながら継承し、市民の声、社会の変化を捉えて市民と一緒に新しい勝山を

創り上げていくと訴え、初当選を果たした。就任時は新型コロナウイルス感染症対策や経済支援などに奔走し力を尽くした。2年目には新しい勝山を目指し「第6次市総合計画」をスタートさせ、住民主体の活動の活性化を目指し「にこにこ地域づくり基金」を創設。懸案の市内3中学校を1校に統合する学校再編にも取り組み、令和9年4月開校を目指し着々と準備が進む。中学校の校舎建設やごみ処理施設整備、長尾山総合公園の整備など積極投資で

新しいまちづくりを目指す。

一方、市内の出生数が初めて2桁台に落ち込み少子化が急激に進む中、県が9月から3歳未満の第2子について所得制限を撤廃し保育料を完全無償化するのを受けて、勝山市は県内初の第1子から完全無償化。加えて新たに不育症治療などの全額助成にも乗り出し、子育て支援策に全力で取り組む。また2年連続で大

雨災害を受けた勝山市は逸早く国や県に支援を要請し河川改修工事を進め、豪雨災害対策にしっかりと取り組む。北陸新幹線開業を迎え、市内観光施設はインバウンド人気や関東方面や中京方面からも観光客が倍増。中部縦貫道全線開通も視野に入れ、さらなる観光の産業化に取り組む。

物静かな中にも勝山市を愛する情熱と信念が溢れ、市政躍進に邁進した水上市長は市制施行70周年を迎える記念の年に、「勝山市の未来を見据えたブランドデザインを描き、市議会との協議を重ねて、市民とともに夢を実現し、新しい勝山、楽しい笑顔のまち勝山を発展させたい」という情熱は市長就任時よりもさらに強くなっている」と再選に向けて熱い想いを示す。行政力に長け識見、行動力を兼ね備える水上氏は、10年、20年先の勝山を見据えている。

一方、7月に市議3期目の竹内和順氏（64）が「市民主役の行政運営を目指す」と出馬表明。勝山を何とか変えたいという思いで出馬を決意したという。竹内氏は自民党員だが、無所属で出馬する。

竹内氏の初挑戦には現職の壁は厚く、歴史と伝統ある勝山市のトップを託すには技量不足の感あり。



水上実喜夫市長